



ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 浦川 務
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

3月の意向

【教皇の意向】 危機に瀕する家族
【日本の教会】 性虐待被害者

2025年 四旬節教書

「わたしはあなた方を友と呼ぶ」(ヨハネ15章15節)

ヨゼフ・アベイヤ司教(福岡教区長)

3月5日の灰の水曜日から四旬節の歩みが始まります。6週間をかけて、聖週間に主の過ぎ越しの神秘を記念するために準備します。

そして、毎日の振り返りを記録するノートを準備するとよいでしょう。

①今まで(幼児洗礼の人もいれば、大人になってから洗礼を受けた人もいます)で、子どももいれば大人も、どういふときにイエス様をより身近に感じたでしょうか。

それはなぜでしたか。静かに振り返ってみます。思い出し体験と、また、それを思い出したときに感じたことを簡単にノートに書きます。

②福音書を開いて(毎日のミサの福音書でもよいです)、一つの福音書を決めて読み続けていってもよいです。そこで伝えられているイエス様の言葉やイエス様の生涯の出来事を心に留め、味わいま

具体的な提案

毎日、(できなければ、週に3回は)どうでしょう。



画: MINO CEREZO 神父

イエス様に目を向けて

今年の四旬節の間、イエス様に目を向けて、イエス様との関わりを振り返ってみるのはいかがでしょうか。

3月21日性虐待被害者のための祈りと償いの日

2016年、教皇フランシスコは、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けるよう通達した。その呼びかけに、日本司教団はこの日を「四旬節第2金曜日」と決定。今年3月21日(金)となる。



性虐待被害者のための祈りと償いの日

東日本大震災から14年 福岡西方沖地震から20年

あの未曾有の震災から14年。そして今年3月20日、福岡西方沖地震から20年となる。フランシスコ教皇は東日本大震災被災者との集いで「一人で復興できる人はいません。…復興を助ける人だけでなく、展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹との出会いが不可欠です」と語った。「目を覚ましていなさい(マタイ25章13節)」。



畠山 七郎 神父 (福岡教区)

叙階70周年

今年、司教叙階70周年(プラチナ祝)、50周年(金祝)、25周年(銀祝)を迎える司教たちに、言葉を寄せていた。長年のお働きに感謝!

祝司祭叙階

70・50・25周年

①今まで(幼児洗礼の人もいれば、大人になってから洗礼を受けた人もいます)で、子どももいれば大人も、どういふときにイエス様をより身近に感じたでしょうか。

それはなぜでしたか。静かに振り返ってみます。思い出し体験と、また、それを思い出したときに感じたことを簡単にノートに書きます。

子どもの頃は、「ワル(悪)の七郎」と呼ばれるほど、神父にちや坊主でしたので、神父になつた時には皆が驚きました。野球が好きでソフトバンクの試合はテレビで応援しています。神学生時代は、野球でもスータンを着ていなければいけなかったおかげで、守備でトンネルは無かったですね(笑)。山登りも趣味で、旧小神学校の校長時代の生徒たちともよく登りました。おかげで今も足腰は丈夫です。これからは神様のみ旨のまに、司祭職を全うできれば幸せに思います。

時の話題

「福岡西方沖地震から20年」に思うこと

2005年3月20日午前10時53分。震度6弱(マグニチュード7)の大地震が起きました。死者1人、負傷者約1200人、住宅全壊約140棟。警固断層は日本一危険な断層。側断層が動く。巨大地震の恐れがある」と言われています。

「災害時、教会に連絡したら助けに来てもらえるだろうか」「教会で知り合った友だちに会えてもらう」と話している人がいます。しかし、教会は信徒が広範囲にわたって住んでいた、高齢者が多かったりします。災害時には、自治体が指定している避難場所指定されている。公民館や指定されている学校には、非常食・水の備蓄があります。また、洪水や津波時と地震時の避難場所が異なる地域があります。居住地の避難場所は確認しておきたいものです。

時には住んでいる地域の防災訓練やイベント、清掃活動などに参加したり、さまざまな講座を聞いたりして「地域の人たち」と繋がっていくことも大切ではないでしょうか。「大丈夫ですか」「一緒に避難しましょう」と声をかけ合い助け合える関係を普段から築くことも、「出向いていく教会」の姿だと思います。

阪神・淡路大震災の時、カトリック鷹取教会(現カトリックたかとり教会・神戸市)は、全国から集まったボランティアの中核拠点となりました。ほとんどの人は信徒ではなく、何か手伝おうと集まった人たちがいました。教会隣の焼け落ちた家の片づけから始めたと言いました。

思いがけず幼稚園バスの添乗員をやっている。園児の乗降をサポートするのが主な仕事だ。当然、車中では子どもたちとの会話が頻発する。例えば「1たす1は？」と訊かれるので「2」と答える。続いて「2たす2は？」「4」さらに「4たす4は？」「8」……この2の累乗の計算が延々と続く。自然科学的な質問を受けることもある。「電気ってなに?」「水はなにからできているの?」などである。業務の範疇外とは思っている。前者であれば「電子の流れ」、後者は「酸素原子一つと水素原子二つ」といった具合だ。もちろん彼らはキョトンとするが、的外れではないだろうから「容赦願いたい。とにかく、怒涛の如く押し寄せる会話にはこのくらい簡潔でないと対応できない」そんな中、思わぬ質問に出合った。曰く「人はどうして生きるの?」聞き違いかと思

叙階50周年

ヨゼフ・アベイヤ 司教

(聖クラレチアン宣教会)



1975年に名古屋で相馬信夫司教様から助祭に叙階され、その数か月後故郷で司祭叙階の恵みに与りました。以来50年の間さまざまな任務を与えられました。頼まれたことを素直に引き受けることを私の宣教師としての歩みの基準にしました。振り返ってみてこれ良かったと思います。

主の恵みに頼りながらの歩みでした。そしてもう一つ大きな支えになったのは「出会い」です。小教区の日常生活の中で信仰を生きようとする信徒や何かを求めて教会を訪れる人々との出会い。修道会の兄弟たち、特に本部で仕事をしていた時の世界中で働く兄弟たちとの出会い。修道会

叙階25周年

竹内 英次 神父

(長崎大司教区)



長い間、福岡ではお世話になりました。いつも仏頂面であつたため嫌な思いをさせてしまった皆さまには深くお詫び申し上げます。

先日のフィリピンでの司祭生涯養成研修では貴重な体験をさせていただきました。とても辛い日々でしたが、貧しさの中にあつても神様に信頼を寄せて笑顔で懸命に生きていく人たちが出会い、神様を信じる力が生きたことになりました。そして司祭にはいつでもどこでも神様と人を結びつける大切な使命があることを思い知らされました。

以前、深堀純先生(旧福岡サン・スルピス大神学院)が、「ミサの時に司祭が手を供え物にかざすのは、日陰をつくるため」と語られていた。神様の恵みが祭壇の上の供え物に注がれるように手で陰をつくりだすのが司祭の役目だ。ならば司祭は仮小屋で日陰をつくり、恵みを求める信徒に対して憩いと潤いを与える存在にならなくてはと思ひました。皆の善益のために自分を差し出すことのできる人、自分の身を挺して人に安らぎと力を与えるものになれるように、これからもお祈りをお願いいたします。

幸いにも、誰の命令なのかなどというさらなる追求はなかった▼さて、貴方なら何と答えるだろうか?(T)

第5回 福岡教区宣教司牧評議会

2025年2月2日(日)

に第5回福岡教区宣教司牧評議会が大名町教会講堂で開催された。26人の評議員がみこばに耳を傾けた後、活動報告や検討事項の審議を行った。議題は多岐にわたったため、ここでは以下の4点に絞って報告したい。

まず、日本カトリック障がい者連絡協議会(力障連)福岡大会について。同会は3年に1度全国大会を開いており、近年では2023年に長崎で開催している(福岡教区報同年11月号に報告記事あり)。次回は来年11月に名古屋大会が予定されているが、その次の大会として2029年に福岡教区で開催できないかという打診があった。評議会では、力障連の事務局長・小池政男氏とオンラインで中継をつなぎ、力障連について説明を受けた後、審議を経て開催を決定した。

次に「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」について審議し、教区として加盟することになった。これは被爆地である長崎教区と広島教区、そしてアメリカの核兵器開発や配備の地であるサンタフェ教区およびシアトル教区の対話から生まれたもので、核被害を思い起こし、将来の被害を防ぐために活動する国際ネットワークである。具体的な活動は各加盟団体に任されており、今後は社会福音化委員会が中心となって推進することとなる。

さらに、大阪教区の前田万葉枢機卿を代表とする「26聖人聖画等プロジェクト」の協力依頼についても審議した。約100年前、岡山聖虚というカトリック画家が26聖人を1人ずつ掛



岡山聖虚が15年をかけて掛け軸に描いた等身大の「日本二十六聖人図」

け軸に描き、当時の教皇に献納したという。それを修復し、大阪・関西万博のバチカンパビリオンで展示するはこびと

奉獻生活の喜びに生きて

2月2日の「世界奉獻生活の日」に合わせ、福岡教区のカトリックでは冷たい雨となつた2月1日(土)、講話と感謝ミサが行われた。

最初の講話は聖心のウルスラ宣教女修道会の3人のシスターによるもの。シスター野村光子は修道会入会前にウルスラ学園の校長と偶然道で出会ったときの会話を紹介した。校長から「あなたは向こうへ行つて何ができますか」と尋ねられたシスターが「何もできません」と答えたのに

て活動することが期待される。ほかに、集会祭儀の司会者養成や教区創立100周年関連事業の実施状況が報告、検討された。評議会では小グループで意見交換をするのが恒例であるが、今回はその時間もなく、アヴェ・マリアの祈りをもって一同は散会した。

報告 安藤智子(西新教会)

が苦でなくなったと続けた。シスター松永みかは、入会前に父親を交通事故で亡くしたことにより神への反発心が湧いたが、女の子を交通事故で亡くした母親が加害者を前にして「この方を許します。この子はこの方を許してあげると言うから」と述べたエピソードを知り、心が和らいでいったと語った。

続いて幼きイエスのシスター・金公女は、大腿骨頸部骨折で手術を受けりハリビ中の93歳のシスターとの会話を紹介した。そのシスターに「いま何がしたいですか」と問いかけたところ「いつしよに祈りをしたい」と言われてびっくり。「シスターの心は最後まで宣教をする夢を持っている」と結んだ。

その後、アベイ司教主司式、他4人の司祭による共同司式で感謝のミサが捧げられた。説教の中で司教は「私たちは主の奉獻生活の恵みを感じ、その召し出しを受けた人々が忠実に喜びと希望をもって生きていくように祈るために集まった」と語り、朗読された福音に触れて「何に動かされて生きていくのか」「誰に目を向けて、何が見えてくるのか」「誰を、何を抱えているのか」「何を語っているのか」という四つの質問を呈した。

奉獻生活を語った姉妹たち
(左から Sr 松永、Sr 野村、Sr 市野瀬、Sr 金)

※下記QRコードより「世界奉獻生活の日」の配信がご覧になります。

司祭生涯養成プログラムinフィリピン
熱い信仰に支えられた教会の底力

ザビタ平和学習開発センターで、キリスト教徒との対話に努めるイスラム教徒(中央)の体験談に耳を傾ける

をガクタン司教様に案内していただきました。17日の午後にはマニラ空港から、今回の養成プログラムメインの滞在地であるザンボンガへ飛行機で移動。それから、27日にザンボンガを離れるまで、なんと地元警察と軍によって(過激派の脅威に備えて)守られることになりました。

路上生活者・人身売買被害者に対する支援活動を視察し、(特にイスラム教徒に対する)諸宗教対話についての説明を受けました。社会問題や武力紛争を解決するために、フィリピンの教会が尽力している様子が印象的で、フィリピン政府も教会の活動なくして、問題の改善ができないのではないか、と思われるほどです。

また、信徒を中心とした基礎教会共同体(BEC)が、教会の宣教司牧活動のために、理念に基づきさまざまな計画を立案し、実行している様子に圧倒されました。そして、あちこちで印象に残る若者たちの力強さ。典礼奉仕をはじめ、教会の使命に積極的に生きていく彼らの姿に、改めてフィリピンの教会の底力を感じます。

黙想の家での生活は、フィリピンの一般庶民の生活を象徴していましたが、私にとっては、ストレスフル。そんな貧しさの中にあっても、彼らの信仰は熱いのです。

報告 井手公平神父
(新田原教会主任)

計報

マリア・ルトガタ 伊藤園子修道女
(シトー会伊万里の聖母修道院)
1月26日帰天。享年90。修道生活60年でした。

サンパウロ 福岡宣教センター

営業時間:
10:00~18:00
定休日: 日曜日・祝日

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 / fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください

(株)ジャパン・スマイルか

代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業

- ・一般住宅(新築・改築工事)
- ・鉄骨工事
- ・RC工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 **森山工務店**

ヨゼフ 森山新太郎

福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎ (092) 811-7265

別れ・出逢い・旅立ち

草苑 [SOUEN]

カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。

木下株式会社

TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

知りたい！
福岡教区内の
修道会
宣教会③

毎年本部修道院で行われる
行事「マリアンデー」にて



本部修道院には1975年から1981年まで101回涙を流された木彫りの聖母像があり、秋田の聖母の巡礼地となっています。国内外から多くの方がお祈りに来られるので、本部会員たちは巡礼者への奉仕をしています。

私は院外会員として熊本市のカトリック保育園で園長として、園児、保護者の方々、職員が神様と出会い、受洗のお恵み、喜びに溢れる信仰生活のお恵みが注がれるようカトリック教育に努め、みことばの種まきをさせていたいております。健軍教会で毎日ミサに与り、ご聖体のイエス様を拝領し、教会に奉仕させていただくことは私の生活になくはならない喜びであり、私の霊的生活の中心です。また距離は離れていても秋田の本部修道院や他の院外会員と心を合わせて朝晩の聖務日祷やロザリオのうちに、全世界で苦しむ兄弟姉妹や祈りを約束した方々のために祈っています。九州にいる会員は私ひとりですが、この小さな会に入会し秋田の聖母の巡礼地を共に担ってくださる方、院外で奉献生活を捧げる方の召命を願っています。

Sr. テレジア 益田 典子

福岡教区には現在30の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。

一昨春より紹介している、その修道会や宣教会。第30回は、聖体奉仕会です。

聖体奉仕会

聖体奉仕会は、1970年、当時の新潟教区長・伊藤庄治郎司教によって設立されたカトリック女子奉献生活者の小さな会です。会員は「貞潔、清貧、従順」の誓願を立て、イエス・キリストと聖母マリアの生涯に倣い、一生を神と人々への奉仕のために捧げます。聖体奉仕会には、秋田市添川湯沢台の本部修道院で祈りを中心とした共同生活を送る本部会員と、修道院外で生活しながら社会で福音宣教に従事する院外会員がいます。カトリック教会の中心である「聖体」に現存されるイエスへの奉仕を目的とし、新潟教区長の指導のもと、「我、渴く」（ヨハネ19:28）と叫ぶ主イエス・キリストのみこころに生活のあらゆる場面で応えることが、会の精神と使命です。

ご存じの通り、毎年1月18日から25日までの8日間は世界中のキリスト者たちが教派を超えて一致を祈る「キリスト教一致祈禱週間」。福岡でも1月19日（日）、恒例のキリスト教一致祈禱会が開催された。今年は持ち回りでカトリック教会が祈禱会の司式を担当する番で、中村彰神父が大名町教会で司式を行った。英語ミサとの兼ね合いで、



各教派の信徒による祈り

今年の説教は日本キリスト教団福岡中部教会の塚本吉興牧師が担当してくださった。先生は、カトリック系学校で聖書を教えられた体験談を交え、私たちがこうして教会の風習、形、方法を超えて唯一の主を讃え、宣べ伝えるために集まることのできるの、今年の礼拝のテーマ「主イエスは命であり復活である。イエスを信じる者は死んでも生きる。あなたはこれを信じるか？」という問いに「はい、信じます」と答えることができるからであると、力強

2025年
福岡キリスト教一致祈禱会

本年度は例年より2時間遅れ、18時からの開始になったせいか、いつもより残念ながら参加者は少ないように見えた。それでも集まった人々の一致を願う熱心さに変わりはなく。今年の礼拝にはキャンドルサーピスも盛り込まれ、とても厳かな雰囲気の中で進んだ。

他者のために自分を捧げること胸に刻んで

く語ってください。現在の日本にはキリスト教徒は全ての教派を合わせて人口の1%足らずしかない。それが世の光、地の塩となれ

るのは、こうして全てのクリスチャンが唯一の主イエスのもとに手をつなげるからではないだろうか？

報告 糸川 銚 (箱崎教会)



長崎二十六殉教者記念碑の前で

2月1日（土）から2日（日）にかけて、カタラントの主催で長崎巡礼を行った。今回は九州に住む青年を対象とし、福岡から20人、長崎から5人、8カ国からなる25人の巡礼団となった。1日目は天候

が、お互いに励まし合いながら目的地へ進んでいた姿を見ると、日本二十六聖人もこうして歩いてきたのかもしれないと思ひ、込み上げるものがあった。日本二十六聖人殉教記念ミサではたくさんの方が参加し、フィリピンや韓国から巡礼団も参加していた。普段会わない青

にこそ恵まれなかったが、皆で傘をさしながら日本二十六聖人乗船跡、大浦天主堂やコルベ記念館などを訪問し、日本二十六聖人や長崎の潜伏キリシタン、コルベ神父について学んだ。今回は外国籍の青年も多く参加し、しおりに英語表記を入れたり、ロザリオを日本語と英語で唱えたりと工夫もした。

西新教会の子どもたち
「私たちは今」

今がある」と考えたらおもしろいと思いました。7月に堅信を受けましたが、私は教会学校に通い続けています。それは、堅信を受ける前には得ることのできなかった情報にふれたり、知識を増やすことができたのではないかと思います。今後とも、いろいろなことに挑戦しようと思います。

マリア 川下奈未(6年)

私たちは、教会学校で神様やイエス様のことについて勉強しています。私が知らなかったことをいろいろ先生たちに教えてもらいました。

私の妹2人と弟は野球をしているので、なかなか教会に来ていません。だから、私はいつも、3人の分までお祈りしようと思って教会に通っています。

ラファエラ 平田 紗奈(6年)

私は今年から上のクラスに入りました。私はまだ侍者のことがあまりくわしくありません。なので、もう少し動きとかを勉強してから侍者になりたいと思い、毎回、横から侍者の動きを見えています。春からは6年生になるので、侍者をできるようにがんばりたいです。ファウスティナ 川野 美空(5年)

ぼくは4年前に初聖体で、兄から侍者のやり方を教えてもらっていたのに、今ではもう、教える側にまで成長しました。妹が今年、初聖体組に入りました。時がたつのは早いなあ、と感じています。

夏にFYCC(福岡ユースカトリックキャンプ)に参加した兄から「FYCCは友だちもたくさんできてとても楽しかった」と聞きました。しかし、ぼくはFYCCという集まりが、どんな場所で、どんな目的でしているのかわかりません。ぼくはもうすぐ中学生になります。FYCCに参加するのが楽しみです。

アウグスチヌス 田中 純(6年)



(昨秋の敬老の日に) プレゼント作成中

「ラウド・シ」デスクの青年の集い
非暴力と回心の恵みを学ぶ

私は、12月21日（土）22日（日）に栃木県那須塩原市にある学校法人アジア学院（アジア農村指導者養成専門学校）で行われた集いに、全国から集まった8人の青年と参加し、教皇フランシスコが「ラウド・シ」で説いたインテグラル（総合的な）・エコロジーについて考え、交流しま

した。

1日目は、農作業と分かち合いをしました。アジア学院は、持続可能で平和な世界を目指し、出身国や宗教が異なる学生や職員が農業を通して共に生きることを大切にしていきます。その過程で起こる問題の解決方法について、副校長の荒川治先生はカリキュラムに取り入れられた「ノンバ

イオレント（非暴力）コミュニティ



有意義な交流をした青年の集い

き、成井大介司教様（新潟教区、「ラウド・シ」デスク責任司教）のメッセージを聴いて静かに祈りました。2日目は、インテグラル・エコロジーについて瀬本正之神父様（イエズス会）の講話を聞きしました。瀬本神父様は「神に背を向けていた人が回心し、関係を取り戻して救いの恵みが心に沁み渡れば、人（他者）と和解できる。それが自然との関わりに表れ、ケアの心が行き届くようになる」と説明されました。

信仰や自然のために、争うのではなく分かち合うことが理想ですが、簡単ではありません。だからこそアジア学院では、自然の美しい部分だけ享受するのではなく、キリスト教理念のもと、命をいただく痛みも分かち合うのだと思いました。今回出会った青年たちと今後も問いを共有すること、自分にできることを模索し、実践していきたいです。

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
一緒に働いてみませんか

URL: <http://www.st-mary-med.or.jp/>

わたしヨセフの夢

「わたしはマリアの夫で、神のひとりごイエスの養い親であるヨセフです。」

わたしの家はイスラエルの王ダビデの血筋なので、兄たちは、いずれ自分は王になると盛り上がっておりましたが、実際はみな貧しい者にすぎません。

ひよんなことでマリアと出会ったことから、全く予期せぬことが、次々と私の身に起こります。そのたびに神の使いの天使が夢に現れてわたしを導き、妻マリアとかわいいイエスが私を支え力づけてくれるので、何とか乗り切ることができました。

わたしには夢があります。昔は立派な神殿を建てようなどと思ったりしましたが、今のわたしの夢は、もつとでっかい夢です。この絵本を読んでも共感してくれたら、とてもうれしいです。」

サンパウロ社発行
税込価格990円

☆わたしヨセフの夢
今岡まち(文) 大島節子(絵)

BOOK
読み専科

年間目標

互いに支え合う
交わりの教会となる

ホームレス支援 スープの会

2月から3月の2週目までの毎週金曜日に越冬炊き出し

【調理ボランティア】

14時～ 大名町教会 1階厨房

【夜回り（配布）ボランティア】

19時 初参加者レクチャー

20時 夜回り準備（袋詰め）

20時半 各コースへ編成決め

21時 各コース夜回り出発

【献品】

冬物の寝袋や防寒着、
新品の下着、靴下、冬服
大きめのリュックサック

【問合せ先】

☎ 080・1793・0481 深堀

☎ 080・4317・4152 飛永 ☎ 090・8412・7803 前田



聖霊による刷新セミナー 2025 聖年

【日 時】 3月～4月 2週目まで毎日曜日 13時～17時

【場 所】 カトリック手取教会

【内 容】 全7回 ※詳細は右記QRコードから。

【問合せ先】 ☎ 080・1790・2198 松山

宣教養成委員会・信徒養成部
四旬節の黙想 沈黙のうちに主を見つめる

【日 時】 3月～4月 2週目まで毎土曜日 9時～12時

【場 所】 大濠カトリック会館 宣教養成センター

【内 容】 顕示された聖体を礼拝し、自由に祈りの時間を過ごし、時間内を祈りのリレーで繋ぎます。

【参加申込み】 Email:maria1208yuko@gmail.com 江藤

福岡教区社会福音化委員会 正義と平和・人権部門 後援
3.11 を忘れない
チャリティーコンサート

3.11 東日本大震災から14年。放射能から逃れるために、この九州にもたくさんの人たちが避難されています。その想いが歌に乗り、皆さまに届きますように。



【日 時】 3月11日（火） 17時～19時

【場 所】 カテドラル大名町教会 1階講堂

【出 演】 山田那菜子（歌手）・金本友孝（ロックギタリスト・牧師）・西山知華子（琉球音楽協会師範）民謡研究所

【問合せ先】 ☎ 090・9530・3148 内藤

第85回 福岡典礼聖歌研修会

【日 時】 3月16日（日） 14時～16時

【場 所】 カトリック大楠教会

【内 容】 「聖週間の典礼」

【講 師】 深堀 純氏 ※参加費：感謝献金

【問合せ先】 ☎ 092・541・3730 松山 ※典礼聖歌集持参

シスターと一緒に
イエス様と出会ってみませんか Part5「希望って何？」

【日 時】 3月20日（木・祝） 10:00～16:00

（昼食と一緒にいただいております）

【場 所】 聖心のウルスラ宣教女修道会 福岡修道院

【対 象】 高校生・青年・独身者

（希望であれば中学生も可）

【問合せ先】 ☎ 092・512・0033

（聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院）

※参加費は無料です。

※当日は受付のため少し前に修道院へお越しください。



— 召命を共に祈る会 —

福岡地区 3月18日（火）13時30分～ 大名町教会

【問合せ先】 ☎092・921・4532 山口

北九州地区 3月8日（土）14時～ 小倉教会

【問合せ先】 ☎0949・24・9905 藤井

熊本地区 3月休会 ※次回4月24日（木）

【問合せ先】 ☎096・369・8896 松上

— 各種団体の定例会 —

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報3月号」、または
右記 QR コードからご確認ください。福岡教区広報室アドレス
https://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

案内板

会合と催し

3月のこよみ

福岡教区創立 100 周年に向けて
かつどう・できごと掲示板

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう！

2027年7月16日まで

— 8つの巡礼指定教会 —

あと 28 ヶ月

カテドラルの聖年の扉が開きました。

希望の巡礼を始めませんか。

スタンプノートも忘れずに。

※スタンプノートは各教会に見本で
数冊しかお届けしていません。
ノートは巡礼指定教会で受け取って
スタンプラリーを始めてください。

スタンプノート

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ：希望の巡礼者

日 時：3月13日（木）10時～15時

内 容：「希望の巡礼者」イエスさまとともに歩む

次 回：4月10日（木）

内 容：「希望」と信仰

希望はイエスのご復活に基づく信仰の実り

※2025年から、指導はチームで行われます。

問合わせ先：真命山諸宗教対話センター

☎0968・85・3100 FAX) 0968・85・3186

熊本県玉名郡和水町蛸浦1391-7

E-mail shinmeizan@gmail.com

☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします（要予約）

集いの詳細は、
各問合わせ先に
お尋ねください。

■美野島司牧センター

○ホームレスの方に温かい食

事と衣類

毎週火曜日10時

ホームレス支援炊き出し

3月2週目まで大名町教会

「スープの会」と協働

○路上からアパートに居し

た方を訪問 第3土曜日14時

【問合せ先】 ☎092・431・

1419 コース・マルセル神父

■大濠カトリック会館・宣教

養成センター

○ミリアサロン大濠

第1・第3水曜日10時

【問合せ先】 ☎092・753・

6765 角田

○みことばのお弁当

第4木曜日10時

【問合せ先】 ☎092・753・

6765 大濠カトリック会館

■宣教養成委員会「黙想と

祈りの集い」テゼの歌と共に

ろうそくを見つめ、短い歌

を繰り返して、静かに黙想する

時間を過ごしませんか？

【日時】 3月21日（金） 19時30

分～約1時間（場所）大名町

教会小聖堂（問合わせ先） ☎0

編集後記

80・3227・8295（杣）
教区創立100周年記念イ
ベント、8つの巡礼指定教会
スタンプラリーが始まりまし
た。このスタンプノートが大
変好評で、各教会にまずは数
冊お配りした見本を見て「欲
しい！」という声をあちこち
で聞き、とても嬉しい限りでMy life in Fukuoka leading to Catalant was not wasted.
Putri Melinda プトゥリ メリンダ (Indonesia)

Hello, readers!

Allow me to introduce myself. My name is Melinda, and I'm an Indonesian who is currently interning in a vocational school in Fukuoka. I'm also a Catholic.

But by the time you read this, I have returned back to Indonesia because my internship term is over. So, since you haven't had the chance to know me more, I will tell you a bit about myself and how my life was in Fukuoka.

I started my internship in Fukuoka on February 28th 2024 as a 21 years old woman. At the time, I actually wasn't looking forward to working in Japan due to the rumors of toxic work culture that took place in Japan. I was also unhealthy and unwell physically, mentally, and emotionally.

In the first three months, I struggled with loneliness, anxiety, and feeling homesick. As I was an intern, so I was a student in my final University years, writing my thesis and doing my project. The sheer pressure of both personal and professional life pushed me over the edge lots of time. It was difficult seeing my friends doing their thesis and project in Indonesia, while feeling stuck in my own room. "At least, they're somewhere familiar although they struggle", I thought to myself. I understand that, perhaps this is a part of adapting to a new environment with new situations unfolding, which is why I was even experiencing those things.

But alas, there were just moments when it all just felt a bit too much that I started crying and pleading to the Lord to come and save me from my misery. I said to the Lord, "Please be with me. Stay with me. Show me your presence and guide me, Lord. I cannot live without You." And in all of that suffering, I started reading my bible more often, journaling, and even started joining online communities that would interpret the verses in the Bible!

I think it would be a different case if a similar situation happened in my home country. Because what I have seen and experienced growing up, going to church and being with the Lord feels like it's a chore and it's optional, let alone walking in faith and Jesus's teachings. I was surrounded with religions, including my own, but I see little of the fruits of the teachings they received during sermons and into their daily lives. It's like seeing a church as merely a building and something common just like skyscrapers and malls; we could do whatever we want after visiting them.



ありがとう！カタラントの仲間たち

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談
ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口

電話 080-2694-4182

受付時間 月～金（祝日を除く）

10:00～12:00 13:00～16:00